

○平成 30 年度(公財)のべおか文化事業団の事業報告

1. 事業報告書

(1) 概 況

当年度は、財団の名称を「のべおか文化事業団」に改称し、指定管理者としての担うべき役割と責務等を再認識する中で、これまで以上に利用者サービスの向上や地域に根差した文化の振興等に努めていくこととしました。当年度の入場者数については、延岡総合文化センターが 153,272 人(前年度比 13,998 人増)、開館以来の総入場者数は 6,997,386 人に達しました。一方、野口記念館の入場者数は 33,879 人(前年度比 7,829 人増)で、両施設を合わせた入場者数は 187,151 人(前年度比 21,827 人増)となりました。また、施設の稼働率については、延岡総合文化センターが、ホール 69%(大ホール 49%、小ホール 60%)、練習室 46%、展示室 60%、会議室関係 93%で、昨年度に比べて全体的に稼働率が低下しています。一方、野口記念館の場合は、稼働率 36%で昨年度に比べ若干高くなっています。また、施設の利用料金収入については、延岡総合文化センターが 28,530,522 円(前年度比 1,990,129 円減)、野口記念館が 3,908,958 円(前年度比 588,404 円減)で、合わせて 32,439,480 円(前年度比 2,578,533 円減)となりました。この減収の主な要因としては、プロモーター興行による大ホール利用の減少や練習室の利用減少等が考えられます。

今後とも、施設利用の減少要因の分析や他館での取組状況等の調査も行いながら、より効果的な対策を検討していきたいと思えます。

(2) 施設の管理について

施設の管理については、専門業者による定期的な保守点検を行い万全を期しておりますが、当文化センターが建築後 30 年以上経過していることから、特に附属設備等の老朽化が著しく計画的な改修が必要になっています。当年度は、会議室棟と展示室 1 の空調設備、大ホールの音響設備等の改修を行いました。また、来館者が快適に過ごしていただけるように、ご寄贈いただいた絵画をエントランスホール等に掲示し館内環境を充実しました。

(3) 自主文化事業について

当年度の自主文化事業については、公演招聘や住民参加型事業など 5 つの事業組立てで合計 21 事業を実施しました。当年度の特徴的なところは、子供達を対象にした事業を充実したことです。新たに小学校を対象に「演劇」の出前公演に取り組み、方財小学校の児童を含めた東海小学校での公演は、子供達はもちろん先生方からも大変喜ばれ効果的な取組みとなりました。また、地元の児童合唱団との共演「親子で楽しむ〜つうコンサート」、高校吹奏楽部やダンススクールの生徒がコラボした「ORANGE RANGE コンサート」は、参加した子供達には大変貴重な経験になったことと思えます。さらに、音楽の散歩道「トワイライト・トロンボーン・カルテット・コンサート」でも、中高生へのレッスン指導や本公演での合同演奏を取り入れるなど、子供達の本物の芸術に触れる機会の充実を図りました。これらの自主文化事業の全体的な実績は、入場者数が 10,410 人、収支は 2,695,249 円のマイナスとなりましたが、公益目的事業積立資産の取崩し等で対応いたしました。その他、育成事業の一環で「のべおか“第九”を歌う会」など 4 団体に支援を行っていますが、運営上様々な課題が出てくる中で、各団体には、より一層の体制強化と企画内容の工夫等をお願いしているところです。

今後とも、自主文化事業の企画及び実施については、地域の文化団体等との連携を密にし、より効果的に質の高い公演等を提供できるように取り組んでまいりたいと思えます。